

福祉事業所と町内会との連携 ～避難訓練を通じて～

特定非営利活動法人 自立支援センター歩歩路
共同住宅てっちゃん 所長 太田 幸夫

自立支援センター歩歩路について

まもなく創立15年を迎える。

生活介護、重度心身障がい者共同住宅、就労継続支援A型、児童デイなど5軒の建物と8つの事業所で幅広く活動している。利用者はほとんどのかたが重度の障がい児、者。

本部は以前は北35条東1丁目にあったが、2018年9月6日の北海道胆振東部地震の際に建物が損壊し、現在の北35条東5丁目に移転となった。

地震直後の本部の写真



これまでの地域とのつながり

- 設立当初から町内会や近隣の方々との連携は重要なことだと考えてきた。
 - そのため、本部の町内会での草刈や避難訓練等の町内会行事には率先して参加。
 - 法人でのバザーや避難訓練の開催の際には近隣の方々や町内会にご案内をさせていただいていた。
- ⇒一部の町内会の方々や商店の社長さんなど近隣のかたとの距離を縮めることができた。
- ⇒しかし、障がい児者の支援にご理解いただけなかったり町内会や近隣との支え合いや連携にまでは至らず。

共同住宅「てっちゃん」と生活介護事業所 「愛歩路」のある町内会のお話

- 東和町内会

人口600人、世帯数260。

美香保公園の近くに位置していて、小さなお子さんから高齢者まで幅広い年齢層が住んでいる。

一戸建てが多いが、アパート、マンションも混在する。

この地での事業のスタート(8年前) 1

- 当初は1階が児童デイサービス、2階が男性用共同住宅
- 事前に前町内会長宅を訪問し、町内会に事業の説明をさせてくれるように依頼、役員及び班長会議で話を聞いていただいた。
- 「大きな声や物音は出ないのか」「通学路だが障がい者が飛び出して来たりとかで危険はないのか」などの質問が出、ていねいに説明してなんとかご理解を得ることができた。

この地での事業のスタート(8年前) 2

- ・最終的には「頑張ってくださいね」など暖かいことばをいただき、ホッとした。
- ・その後、近隣のお宅やアパートの一軒一軒を同様な話をして回った。
- ・息子さんが障がい当事者というかたもいて「手を貸しますよ」と言ってくださったり順調にスタートを切ることができた。

3年前の転機 1

- 町内会の行事がほとんどなく、接点がないまま過ぎて行き、大きな進捗もなかったが、自主的なゴミステーション周りの清掃、歩道のゴミ拾いや除雪、日頃の挨拶など続けていた。
 - また、毎年バザーを行なうのと同時にカフェも開催して中を見てお話も出来る状況を作ったりしていた。
 - 現町内会長、向かいの歯科医の理事長さん、町内会の役員さん、民生委員さん、ご近所のお子さん達もたくさんバザーに来ていただけるところになって来た。
- ⇒3年前、町内の班長をやってほしいと依頼があり、引き受けたところ、班長会議の出席、回覧板や町内会費の回収などで役員さんはじめ町内の方々と会う機会が増えた。

3年前の転機 2

⇒町内行事の納涼祭りでの人手不足も知り、新年会があることも知った。

班長の仕事は高齢で難しい、女性なので怖い、面倒だと思う方が居ることも知った。

⇒班長を引き受けて3年目。職員内で班長を引き継いでいる。

⇒2年前からは納涼祭りの設営手伝い、カラオケ大会司会進行係なども任された。

⇒法人理事長も出席した結果、理事長の顔も名前も知ってもらった。

・大きな音や声は出ないか、危険はないか、など心配の声があった。

・町内会との接点は納涼祭りのみ。

・自主的なゴミステーション周りの清掃、車道のゴミ拾いや除雪、日頃の挨拶などを続けていた。

・バザーと同時にカフェも行い、屋内で話ができる状況を作った。

・バザーに来ていただけの近隣の方も増えたがまだまだ距離は遠く連携とまでは言えなかった。

町内会の班長を引き受けた

・班長会議への出席、回覧板、町内会費の回収などで役員さんや町内会の方々と会う機会が増えた。

・納涼祭りでの人手不足、新年会があることなど町内の事情がわかった。
⇒納涼祭りの設営手伝い、カラオケ大会司会進行係など任され、新年会での役割もキープしている。

・班長の仕事を敬遠し引き受け手がなかなか居ないこともわかった。
⇒班長の仕事も3年目で、法人の他職員の力を借りて班長を引き継いでいる。

・こうした活動を通じて町内の方に顔を知られてもらえるようになった。

胆振東部地震後の災害への対応について

- ・ あんしんのまちコーディネート事業に依頼し、法人全体での「災害に備えた地域での支え合い研修」を実施した。

全事業所からの参加があり、支援事例をあらためて学び

地域との連携の必要性を実感、町内会と連携しての避難

訓練の企画をたてることになった。

そして避難訓練

- これまでは、消防や防災会社の協力を得て様々な工夫をしたものの事業所のみでの避難訓練だった。
- 今回昨年12月5日の避難訓練では町内会長はじめ3名に町内会から参加していただき、屋内構造や避難口の確認などつぶさに見ていただき、利用者と実際に話もしていただいた。
- 万一の有事の際には避難口から遠慮なく入り、手を貸してくださるようお願いもできた。
- 外階段からの避難をご覧になって「寝袋に入ったら少しでもケガを防げるのでは」「階段の幅半分にコンパネを敷いて寝袋ごと滑らせた」と貴重なアドバイスもいただいた。



これからのこと

- 大きな災害で助け合えるのはやはり近くにいる「人」
知らない人より知っている人だと更にその力は強いものになる
と思う。人の命を守るには自分だけでは出来ない。職員だけでも足りない。消防や警察、自衛隊と言った機関では間に合わないかもしれない。
やはりすぐ近くに居る人の力を持ち合わせることだと感じる。
- 私たち歩歩路は、これからも町内会への働きかけを続けながら、町内にも役に立てるよう努め、自分達が媒体となって、利用者様と歩歩路と町内会が連携し、より安心して生活ができるような環境作りを目指して行きたいと考えております。

ご清聴ありがとうございました

